

風土記の丘の花だより²¹⁷

今、そしてこれから見られる植物(2023年12月23日)

冬本番になりましたね。クリスマス寒波というやつでしょうか。本当に早いもので、今年もあと1週間ほどです。ちょっと早いですが、皆様、よいお年をお迎えください。



さて、左のこの写真は何だと思えますか？じつはセイタカアワダチソウの綿毛です。暑い頃には黄色い花を咲かせていましたね。でも改めて考えるとセイタカは「背高」で納得しますが、どのあたりが「泡立ち」なん？黄色い泡なんかないのに、と思いませんでしたか。この様子を見ると何となくうなづけませんか。命名者には、この綿毛がモコモコしている様子を石けんの白い泡が立っているように見えたのでしょう。



では続いて名前にセイタカが付く雑草を紹介します。これはセイタカハハコグサです。ハハコグサは春の七草の「ごぎょう」として知られていますが、それより背が高いのでこんな名前が付けられました。ハハコグサとは、背の高さもさることながら、葉の形が違います。ハハコグサは先の方が幅広くなりますが、セイタカの方は写真のように先の方が細くなります。ヨーロッパあたりからの外来植物と考えられています。意識していれば、あちこちで見つかります。



おめでたい名前のマンリョウです。漢字ではもちろん「万両」と書き、縁起の良い木とされています。寒い季節に真っ赤な実をつけるので野外ではとてもよく目立ちます。昔から人々に好まれていたので、葉に斑がはいったものや、縮れたもの、また実が白や黄色のものなど、改良品種が多くつくられています。古い植物図鑑ではヤブコウジ科となっていますが、現在の分類ではサクラソウ科となっています。



マンリョウとくれば、次はセンリョウですね。実はふつう赤いですが、これはキミノセンリョウ(黄実の千両)といい、実が黄色いセンリョウです。柳川家の中庭に植えられています。マンリョウとセンリョウ、名前は似ていますが、全く違う植物です。センリョウはセンリョウ科で、サクラソウ科のマンリョウとは別のグループです。昔、親から「万両は、葉の下に実ができて、千両は上にできるんや」と教えてもらった記憶がありますが、そんなテキトーな分け方ではなかったのです。

さてこの花だよりもおかげさまで 217 号まで発行できました。皆様のご愛読のおかげです。ありがとうございます。はじめは 30 枚ほど印刷しても余りました。それから少しずつ印刷枚数が増え、今では 120 枚ほど刷っても足りないほどです。間違いや不謹慎な内容もたまにはありますが、これからもご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。松下